

◆ 平成 30 年度 第 1 回堺区区民評議会(平成 30 年 4 月 24 日開催)

中間報告に基づき、今後の審議を進めるにあたっての方向性について意見交換を行った。また、区民評議会発意による調査やワークショップ、視察などのあり方について検討した。

【主な意見】

- ひとつの取組が好循環をつくり、多様な効果をもたらすきっかけとなるものを提案していくことが必要である。
- 新たな取組を行うだけでなく、既存の取組を充実させるため、支援の在り方を考える。

◆ 平成 30 年度 第 2 回堺区区民評議会(平成 30 年 6 月 21 日開催)

フィールドワークとモデル事業の実施報告、委員からの事例紹介をもとに、基本的な方向性のひとつである「地域力の強化」について意見交換を行った。

【主な意見】

- スピニングミル(堺区並松町)のように以前からまちにあり、地元へ愛着のある物件を活用することで地域の人も集まって来る。古い建物には、新築にはない人をひきつける力がある。
- 地域に住む人々が、まちと関わりを持とうと、何か小さなことでも行動を起こしながら住むことでまちがよくなっていく。
- (リノベ等の)個々の取組も素晴らしいが、点在しているものがまとまることで初めて求心力が生まれる。エリア全体の調和を考えたマーケティングやランドデザインが必要である。
- 堺のよさは、地域内の同業者が競争しないで協力していくこと。ライバルでありつつも、中世ヨーロッパのギルドのような、全体として他と交渉していくようなところがあった。

